

写真等無断転載禁止

習志野環境フォーラム 2024 を開催して

習志野の海を守る会（特定非営利活動法人さざなみ） 島田 拓

ちば環境情報センターの長年の谷津田保全活動に敬意を表するとともに、本稿を掲載させていただく機会をいただいたことに感謝申し上げます。

2024年3月23日、新習志野駅トーセイホテルにて習志野環境フォーラム 2024 を主催させていただきました。私たちは2020年春より、習志野市の海辺を中心に東京湾岸の水辺の保全活動を軸として、地域の歴史を伝える活動や、持続可能な自然環境の実現に向けて市民目線から様々な提言を行っております。



写真.会場全体風景

本市においては1993年に谷津干潟がラムサール条約に登録されて以降、長年にわたり海辺の環境市民団体不在の状況が続いておりました。人の心と水辺が離れていく現状、身近な自然への関心が薄れていくことへの危機感から、およそ30年の時をえて誕生したNPOがさざなみです。

当法人設立当初より県内近隣の自然保護団体や利害関係者、一般市民が一堂に会し、これまでの活動紹介やこれからの環境保全に関して忌憚なく意見交換が行える場を作りたいとの思いがあり、ようやく実現したものが本フォーラムであります。

貴法人の小西様による下大和田谷津田でのご活動紹介をはじめ、周辺の活動家の皆様や研究者から多様なテーマの発表がなされ、総勢70余名の参加者を迎え開催されました。発表された演題は、

- 1) 習志野の海辺の歴史と市民活動
～NPO さざなみ（習志野の海を守る会）

- 2) 三番瀬から東京湾・日本の海を綺麗に
～浦安三番瀬を大切にする会
- 3) 行徳鳥獣保護区の歩み
～NPO 行徳自然保護クラブ



写真. 行徳自然保護クラブ 野長瀬氏

- 4) 習志野の里山における環境活動のこれまでと未来～ほたる野を守る NORA の会
- 5) キツネの住む谷津をいつまでも
～NPO ちば環境情報センター



写真. ちば環境情報センター 小西氏

- 6) バイオエコエンジニアリングを活用した環境資源循環再生システムの構築
～千葉工業大学先進工学部
- の6演題で、どれも大変貴重で示唆に富む内容であり、多くの参加者の心を惹きつけました。初めての試みでしたが、概ね順調な開催であったと認識しており、ここ千葉県北西部の環境市民活動の歴史に1ページを残せたものと認識しております。スケジュ

ールの関係で討論の時間が少ないなど、いくつかの課題もありましたが、来年以降の開催では改善していきたいと考えております。

現在も県内各地で地域を守る市民活動が日々行われており、中には新しい試みも生まれております。こうした試みを広く紹介する場が必要であると感

じます。一人一人の小さな活動も、力を合わせれば大きな成果につながると信じております。

2025 年春にまたお会いできますことを祈念しまして、開催の報告とさせていただきます。どうぞ引き続きよろしくお願い申し上げます。

習志野環境フォーラム 2024 講演要旨と所感

東京都江東区 中瀬 勝義

演題 1 とりもどせ僕たちの海

—習志野の海辺の歴史と市民活動

島田拓 (NPO さざなみ習志野)

1980 年代、東京湾埋立計画の過熱が最終期を迎え、埋立地の湾岸地域は大草原と湿地が広がり、そこで育った子供たちがいた。1990 年代に入ると干潟は保全の対象となり、子供たちの遊びや学びの場ともなった。習志野の干潟の保全は約束されたが、一方で気候変動や海洋汚染、生命多様性の消失など新たな深刻な課題が人類を脅かしている。今、忘れかけていた人々の海への関心を取り戻し、人と自然のふれあいの場となる海辺を取り戻そう！！



海辺の清掃活動

演題 2 三番瀬から東京湾・日本の海をきれいに 横山清美 (浦安三番瀬を大切に作る会)

年 1 回の「浦安三番瀬クリーンアップ大作戦」、毎月のミニクリーンナップを 2003 年にスタートさせ、干潟探検隊を行い、2010 年には「干潟ハンドブック」を発行してきたが、コロナで護岸に入れず、一時中止となっていたが、今、再スタートしている。海はみんなのもので、自分たちで大切に守っていききたい。



2007 年 三番瀬クリーンアップ大作戦

演題 3 埋立地に野鳥の楽園を

～行徳鳥獣保護区の歩み～

野長瀬雅樹 (NPO 行徳自然ほごくらぶ)

行徳鳥獣保護区は、宮内庁鴨場に接し、1989 年に県指定の保護区に。四季を通じて様々な野鳥が飛来し、またトビハゼなど湿地特



水車で酸素を供給

有の生物が 多数生息し、野鳥観察や自然と触れ合える貴重な場所である。1987 年から、富栄養化した水に水車で酸素を供給し、微生物や植物が水の汚れを 栄養塩として吸収し、食物連鎖が復活し、魚や虫が増え、水鳥の飛来と 水質浄化、樹林形成など生態系復活に寄与してきた。

演題 4 知られざる千葉の宝・谷津田

小西由希子 (NPO ちば環境情報センター)

千葉市緑区下大和田の谷津田は 160ha の森が隣接し、湧水が豊富で、市内でも最も自然度が高く、環境省から「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定された。仲間と昔ながらの稲づくりで、保全活動を進めている。

演題 5 ほたる野における環境保護活動

宮入謙 (NORA の会)

演題 6 環境資源循環再生システム構築

村上和仁 (千葉工大)

低酸素社会構築技術活用による環境再生に取り組んでいる。

所感：衰退しかかっていた東京湾環境保全活動が再発進した。経済中心から人と生物共生の生態系重視を期待！（中瀬）

※この記事は、お江戸舟遊び瓦版 1029 号 2024 年 4 月発行より許可を得て編集・転載しました。

ボラを追うスナメリ

2024年3月10日9時、九十九里町小関にある片貝港の外の防波堤に立つ私は、スナメリの存在に気が付きました。防波堤に囲われた湾の中に入ってくることはよくありますが、珍しいのは水面下スレスレを猛スピードで泳ぎ始めたことです（写真1）。波紋でスピード感がわかりました。私から遠ざかる形で、時より水面に姿を現しました。あわ



写真1.猛スピードで泳ぐスナメリ

わててシャッターを連写。過去にも同じような光景を目にしたことがありますが、猛スピードで泳ぐ行動は謎でした。遊んでいるのでしょうか？

しかし家に帰り、撮影した画像を見てその謎がようやく解けました。最後の写真でスナメリの鼻先でボラが空中に飛び出していたのです（写真2）。スナメリはボラを追いかけていたようです。過去の似たような体験もボラなどの魚を追いかけていたのでしょうか。この付近はボラが多く、ウの仲間やカンムリカイツブリ、

大網白里市 平沼 勝男

ミサゴなどの魚食の鳥たちの餌食になる魚はたいいていボラです。

写真1ではスナメリの向こうにサーファーが写っているのですが、スナメリの大きさがわかると思います。小型～中型のスナメリです。



写真2.スナメリの前に飛び出したボラ

その後スナメリは、私の立つ防波堤のすぐ近くに来てくれました。足元にいたスナメリの写真も添付します（写真3）。同じ日です。



写真3.近くに来たスナメリ

新浜の話 75 ～法人化をめざして～

奮励努力・悪戦苦闘・日々是好日？・・・・・・と
いった1990年代。初めての保護区管理作業の毎日の間にも、こつこつと目指しているものがありました。友の会の法人化という目標です。

保護区の環境改善や普及啓発といった業務で、スタッフの補助ばかりか、時には中心となって活動を牽引している行徳野鳥観察舎友の会（現在は特定非営利活動法人 行徳自然ほごくらぶ）は、肩書のない任意団体でした。クラブや同好会と同じです。現在でも、こういう任意団体のままで活発に活動されている団体は、千葉県野鳥の会をはじめ、多数あるわけですが、任意団体は、たとえば銀行に口座を開くといった場合も、会長さんとか会計さんなど、どなたか個人の名義で口座を持つしかありません。スタッフを雇用するとか、資産（軽トラックなど）を持つ場合も同じです。

当時、環境関連の全国的な団体は「財団法人」として法人格を取得していました。これは一定の原資を持ち、その運用益から経費（たとえば職員の給与など）を出すというものです。法律上、原資の下限は300万円のようなのですが、日本野鳥の会が財団法人となった

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

1960年代末には、認可するには少なくとも3000万円の資産が必要と言われていました。友の会が法人化を意識した1980年代末には、必要な原資はおおむね1億円と言われました。ちなみに、金利が限りなくゼロに近い現在はどうなっているのか、不勉強な私にはよくわかりません。

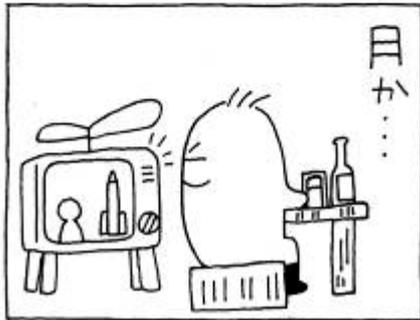
どうして会社法人等々を目指さなかったのか。それも今となってはよくわからないのですが、千葉県や市川市といった行政からの委託を受けて業務を行う上では、営利組織である会社法人よりは非営利組織である財団法人のほうがよいだろう、ということもあったはず。

法人格を得るため資金作りをはじめたのはたぶん1980年。この年、アメリカの国際鶴財団にボランティアとして滞在していた百瀬邦和さん、茂田良光さんの帰国に合わせて、尾崎清明さんといっしょにアメリカ国内を旅行した時に、お土産として買ったカードの図柄がとても気に入って、メーカーのケイブ・ショアという会社とやりとりするようになりました。

スロマン

作:つやま おきこ

40



つやまおきこウェブサイト
2世紀絵コジ〜 <https://2leco.net/>

この会社のカード類や、日本国内で野生動物のかわいいぬいぐるみを製造・販売されていた落合けいこさんの「やまね工房」の製品、日本鳥類保護連盟や日本自然保護協会が出していた「庭に小鳥を」などの安価なりーフレット類、カレンダーや図鑑、そして自作の石粘土による鳥のマスコット（根付）を観察舎の利用者が多い日曜に、お土産としてこっそり売っていました。お役所の担当の方々には内緒です。40年も昔のことですから、時効かな。「真間川の桜並木を守る市民の会」が春の桜の開花に合わせて行っていた「満開キャンペーン」など、いろいろなイベント時にも、こうしたグッズを売りました。ちまちまと稼いだお金やご寄付で、1980年代末には1千万円近くが貯まりました。これにトヨタ財団の研究コンクール最優秀賞の賞金2千万円を足すと、当初の目標であった3千万円には到達できたのです。でも、立ちふさがる「おおむね1億円」の壁。

1998年12月に成立した「特定非営利活動促進法」ほどありがたいものはありませんでした。この法律によって、大きな原資がなくても「特定非営利活動法人（NPO法人）」として法人格を持つことが認められるようになったのです。友の会は千葉県の認証によって2000年3月30日にNPO法人となり、後によりハードルが高い認定NPO法人に認可されて（2012年6月16日）、寄付をしてくださった方が税制上の優遇措置を得られるようになりました。いっしょにここまでの目標をめざし、長い道のりを歩いてくださった数多くの方々に、ただひたすら脱帽です。

<総会のご案内>

日時：2024年6月1日（土）10時～12時

会場：土気公民館 会議室（土気駅から徒歩すぐ）

※総会資料は正会員に別便で送付します。正会員以外でもオブザーバーとして参加できます。事前にご連絡ください。

<市長と語ろう会> に参加しませんか

日時：6月7日（金）18時～19時

会場：土気公民館 和室

希望される方はメールまたは電話でお申し込みください。

（締切り5月17日（金））

<今年の谷津田保全活動> ぜひご参加ください

田んぼ：新たにヨシ原を開墾して田植えをします。

畑：小麦・大麦、芋やトマト、ハーブなどを育て、みんなで収穫して会食やクラフト教室を予定しています。

森：手入れする森を広げ、コナラ・クヌギの森づくりをすすめます。

自然観察会とごみひろい：これまでと変わらず続けます。

いずれも連絡先：yatsudasukisuki@gmail.com Tel:090-7941-7655

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2024年 6月号（第322号）の発送を 6月 7日（金）10時から千葉市民活動支援センター談話室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか _____ キリトリセン _____

住所〒 _____

ふりがな _____
氏名 _____ Tel _____

E-mail _____ FAX _____

会費の郵便振替口座は00130-3-369499です。

編集後記: ご飯に入れたササゲも、おひたしの小松菜も、卵とじのサヤエンドウも、サラダのブロッコリーも、みな小さな畑で穫れたもの。そしてテーブルには季節の花が…。草取りが大変だと言いながら、実は土に触れて癒されている。畑でひとしきり泥あそびをした孫が、「あー、たのしかった！」と独り言。ばばちゃんも同じだよ。 mud-skipper ♀

<小山町での活動>

☆第 224 回 小山町 YPP「苗代づくり2」 2024 年 4 月 6 日 小雨 報告：赤シャツ親父
朝の気温は 10℃以下、時折しよぼしよぼ雨降るはっきりしない天気。主な作業はアザミ谷への緑米の苗代設置であったが、新導入の割竹で組んだ基部、くせつけを行った割竹アーチを用い超迅速に設置完了、引き続き、アザミ谷全体の畦整備と水回りの調整を行った。いつしか、やや薄日も届き、穏やかな陽気へ変化すると、ツバメの飛来も確認された。なお、先行して田植えを行う予定の大椎小の苗代には育苗シートをかけ生長の加速を願う。のみならず、全ての苗に元気に育ってほしいと願うばかりである。 参加者 4 名（大人 4 名）

【谷津田・季節のたより】 2024 年 4 月

<下大和田町> 報告：平沼勝男

4/14 水がぬるむとザリガニも活発になっているようで、5~6 個の穴をふさぐ。アライグマの足跡が至る所にあり、しかも大小さまざま。水面をホソミイトトンボが沢山飛び交った。

4/27 田の水管理。シュレーゲルアオガエルが元気に鳴く。カルガモのつがい田んぼに。野鳥のさえずりがにぎやか。キジ、ウグイス、シジュウカラ、ヒクイナ（複数）、メジロ、キビタキ、アカハラ。森に入ると私の好きなサンショウの若葉の香りがしました。林床ではたくさんのキンランが咲き誇り、ギンランも可憐なつぼみを付けていた。

<小 山 町> 報告（た：たんぼぼ、赤：赤シャツおやじ、高：高山）

4/13 あかがえる田んぼにアオサギ 3 羽飛来、シオヤトンボ今季初めて見る（た）、暖かさに誘われてシオカラトンボまで羽化、シオヤトンボは水辺を離れて丘の上の畑にも来ていた、あぜではトキワハゼやニョイスミレ、林ではウラシマソウなど春の草花が一斉に開花し、ウワミズザクラも花開く（高）

4/14 田んぼのあぜの近くにシュレーゲルアオガエルの卵塊（高）

4/17 今春初めてキビタキのさえずりを聞く（高）

4/19 旅立ち前のアオジがあちこちでさえずりの練習（高）

4/26 林でフジが咲き始める、もう旅立ったと思っていたクサシギの声を聞く、ゴミグモやオオシロカネグモなどクモたちも出現（高）

4/27 小山の田植えが始まる。レギュラーのリスさんこんにちは（た）、ケラやヒメギスの鳴き声を聞く（高）

4/28 カワトンボ出現、ヤマドリが豪快な羽音を立てて飛翔（赤）

4/29 田んぼの草取りをしている手元にホソミオツネトンボが現れる、カラスアゲハが田んぼに吸水に来ていた（高）

【イベントのお知らせ】 主 催：NPO 法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 ,

<下大和田谷津田> E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

・ 森と水辺の手入れ

日 時：2024 年 5 月 19 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天中止

内 容：雑木林を維持するために、アカメガシワやイヌザンショウなどの低木の処理を行います。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物 参加費：無料

・ 第 292 回 観察会とゴミ拾い

日 時：2024 年 6 月 2 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天決行

内 容：緑深まる谷津田。盛んに飛び回るチョウやトンボなどを観察しながら谷津を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴（通常の）、帽子、ゴミ袋、弁当、敷物
参加費：100 円

<小山町谷津田>

▼第 226 回 小山町 YPP「コシヒカリの田植え」

今期最初の田植えを行います。

日 時：2024 年 5 月 11 日（土） 10 時 00 分～ ☆小雨実施

場 所：小山町谷津田

上記に限らず、参加ご希望の方は、赤シャツ親父（e-mail: tomizo_i@nifty.com）までご連絡下さい

